



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が6月19日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、6月29日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

糖尿病の新薬開発に向け サノフィとジョスリン糖尿病センターが提携

ハーバード大学医学部関連施設との共同研究により新薬開発を目指す

フランス、パリー2012年6月19日ーサノフィ(EURONEXT:SAN および NYSE:SNY)とハーバード大学医学部付属の教育研究機関であるジョスリン糖尿病センターは本日、糖尿病と関連疾患の治療に向けた新薬開発を促進する新たな研究提携契約を締結したことをお知らせいたします。今回の提携は、米国マサチューセッツ州ボストンで開催された2012年バイオ国際会議(Bio International Convention)において発表されました。

ジョスリン糖尿病センターは糖尿病の研究と治療に豊富な経験を有する施設で、今回の提携契約では糖尿病とこれに関連する代謝障害における4つの領域を重要分野とし、糖尿病の後期合併症の治療に用いるバイオ医薬品や低分子医薬品の候補となる新規物質や、効果を絞り込んだ新規インスリンアナログの創薬を目指します。また、インスリン抵抗性やパーソナライズド・メディシン(個別化医療)にも取り組み、糖尿病患者さんの生活改善を目標とする研究も行います。

サノフィの国際研究開発部門のプレジデントであるエリアス・ザファーニ博士は、「サノフィ糖尿病領域部門とジョスリン糖尿病センターという糖尿病治療における二大陣営の提携は、糖尿病の本質をより良く理解し、新しい治療法の開発に向けた新たな道筋を示す可能性があります。また本提携は、糖尿病の管理とケアの改善と革新的な研究戦略の策定に向けたサノフィの取り組みを示すものでもあります」と述べています。

サノフィは契約条件に従い、研究結果の商業化におけるオプション権を保有します。また両者とも、内部での研究に関わる知的財産を使用する権利を得ます。

今回結成される合同チームのリーダーとなるC・ロナルド・カーン博士(ハーバード大学メアリー・K・アイコッカ医学部教授、ジョスリン糖尿病センター主席学術責任者)は、「今回の機会により、糖尿病と関連代謝障害の研究や診療に関わる製薬業界の専門家と当研究所の科学者らが結集します。これにより素晴らしいコラボレーションが生まれ、糖尿病治療と患者ケアの進歩をもたらす革新的な研究が行える可能性が大いにあります」と述べています。

本提携における財務に関する契約の詳細については公表しておりません。

以上

ジョスリン糖尿病センターについて

ジョスリン糖尿病センターは、世界有数の糖尿病の研究・臨床機関です。同センターには世界最高の研究者や臨床家が集い、糖尿病とその合併症の予防、治療と治癒に向けた活動を展開しています。ハーバード大学医学部の付属施設の中でも、ジョスリン糖尿病センターは特に研究に力を入れている施設で、糖尿病に特化した研究所というユニークな特色を備えています。同センターでの発見は世界中の糖尿病患者さんの生活を改善し、治癒に向けた大きな希望をもたらしています。1898年、エリオット・P・ジョスリン博士が一人で設立したジョスリン糖尿病センターは、現在では600人以上の職員を抱える組織に成長しました。同センターは現在、ジョスリン研究所、ジョスリン・クリニック、およびジョスリン・ストラテジック・イニシアチブの3部門で構成されています。ジョスリン研究所は、300名以上の職員が41名の教授レベルの専門家による指導のもと、1型と2型糖尿病、糖尿病による長期合併症の予防と治癒を目指す大規模な研究プログラムを展開し、120名を越える博士研究員が研修を受けています。ジョスリン・クリニックは世界で最初に設立された、世界で最も高い評価を受けている糖尿病治療施設で、高度な専門知識と多彩な能力を持つ専門家らが毎年2万3千人の成人・小児患者の治療にあたっています。ジョスリン・ストラテジック・イニシアチブでは、ジョスリン糖尿病センターの知識と経験を世界中の患者さんや臨床医に活用いただき、糖尿病治療の質を向上するための革新的なプログラム、製品やサービスの開発とマーケティングを行っています。

サノフィの糖尿病領域部門について

サノフィは、革新的で個人に合わせた総合的なソリューションを提供することによって、糖尿病の複雑な問題の管理にあたる人々を支援しています。糖尿病患者さんの声に耳を傾け、対話することによって得られた貴重な見解をもとにパートナーシップを構築し、診断、治療、サービス、革新的な血糖モニタリングシステムをはじめとするデバイスを提供しています。サノフィは、1型糖尿病および2型糖尿病患者さん向けに注射薬と経口薬を販売しています。開発品パイプラインには、単独療法、または基礎インスリンや経口糖尿病薬との併用療法による臨床試験を実施した注射用GLP-1受容体作動薬があります。

サノフィについて

サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした治療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、ヘルスケア分野において7つの成長基盤を中核としています。それは糖尿病治療、ワクチン、革新的新薬、希少疾患、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品です。サノフィは、パリ(EURONEXT: SAN)およびニューヨーク(NYSE: SNY)に上場しています。

今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは大幅に異なる可能性があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関するFDAやEMAなどの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、ならびにサノフィの2011年12月31日終了事業年度フォーム20-F年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成したSECおよびAMFに対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。